

世記49章1～33節

ヤコブは今、147歳、人生最後の時を迎えました。彼は死ぬ前に12人の子供たちを全員枕元に呼び集めました。そして、彼らの将来について語りました。

1～2節「・・・集まりなさい。私は、終わりの日におまえたちに起こることを告げよう。ヤコブの子どもたちよ。集まって聞け。おまえの父イスラエルに聞け。・・・」

ヤコブから、これら12人の子供たちに対することばは、祝福のことばであると同時に、又叱責や預言のことばでもありました。

それでは、ヤコブの12人の子供たちへの言葉から学びましょう。

——— 12人の子供たちへの

言葉 ———

・ルベン (3、4節、読む)

彼は長子でした。本来は兄弟たちの代表、部族のかしらです。ですから他の兄弟たちより、2倍の祝福にあずかって当然のはずでした。しかし、彼は「水のように奔放（ほんぼう）で」した。この様に衝動的で、特に性的な面で弱く姦淫の罪を犯しました。この様に多情な性格のゆえに、残念ですが彼は長子の権利を失いました。また、メシアも本来ならば長

子のルベン族から生まれるのが当然のはずでしたが、その恵みも逃してしまいました。

・シメオンとレビ（5～12節）この2人は一緒に学びます。

彼らも祝福を逃しました。彼らは同じ母（レア）から生まれて仲が良かったようです。しかし、「5節、彼らの剣は暴虐の武器、・・・6節、彼らは怒りに任せて人を殺し・・・」と書かれているように、これは明らかにシュケムでの暴虐（34章、すべての男子皆殺しの事件）を指しています。「怒りに任せて・・・」たとえそれが、妹ディナがけがされた事の報復であったとしても、余りに残虐なやり方のゆえに叱責されています。この結果、彼らは一緒に住むことが出来ないで、イスラエルの中に散らされると告げられました。

・ユダ（8～12節）

ユダは4男なのに、思わぬ祝福を得ます。すなわち将来、王（ダビデ王）と救い主（メシア）が彼の部族内に生まれるという約束をいただきます。8節には、彼が兄弟たちの中であがめられることが書かれています「兄弟たちはおまえをたたえる。」。更に10節「王権はユダを離れず、王笏（おうしゃく）はその足の間を離れない。」と書かれています。このみ言葉の通り、ダビデ王はユダ部族から生まれました。確かにユダはヨセフの命を救いました（37：26～28節）。ヨセフの弟、ベニヤミンのことも必死になってかばいました（44：18～34節）。しかし、そんな彼にも多くの失敗があったのです（38章、参照、近親相姦の罪）。しかし、ユダは自らの罪を認めました。人類を救ってくださるメシアは、悔い改める者の罪を赦します。そして、この様にユダに幾

つかの欠点があったとしても、主はユダ部族を選び、そのユダ部族から誕生なさいました。

・ゼブルン（13節）

ゼブルン族が、貿易活動で繁栄することが預言されています。

今、父ヤコブはこれらの祝福の言葉を、決して口から出まかせに語っているではありません。ヘブル11：21節では、ヤコブのこれらの行為が信仰によるものであると称賛しています。「信仰によって、ヤコブは死ぬときに、ヨセフの息子たちをそれぞれ祝福し、また自分の杖に寄りかかって礼拝しました。」また、今ヤコブは12部族の中の、1つの部族も無視していません。みんなそれぞれにふさわしく祝福して語っています。（28節）

さあ、後半に行きましょう。

・イッサカル（14、15節）

イッサカル族は強くなり、良い地が与えられているにも関わらず、安逸をむさぼったために、やがて奴隷となって卑しめられます。

・ダン（16～17せつ）

ダン部族ですが、「17節、ダンは道の傍らの蛇となれ」と書かれています。この「蛇」の言葉から狡猾さ、機敏さ等のイメージを感じます。その言葉の様に、のちに彼らは士師記18章に書かれているような大失敗（ライシュの人々を皆殺しにして、そこに自分たちの国を作るという。）をしてしまいます。

18節は、挿入句です。ヤコブが子孫について語り

つつ、同時に人間の罪深さを思い、人が罪から救われるのは神によるしかないことを告白しています。

- ・ガド（19節）

ガド族は、軍事力が優れるようになる。

- ・アシェル（20節）

アシェル族は地中海の豊かな土地に住み、おいしい物を食べ、幸せに暮らすようになる。

- ・ナフタリ（21節）

ナフタリ族については、子孫の祝福が伝えられています。

- ・ヨセフ（22～26節、22節のみ読む）

最も称賛されたのはヨセフ族でした。ヤコブから最も愛された妻ラケルの子であり、また奇跡的な出世をして、一族を飢饉から救いました。また、兄弟たちを恨んだり憎んだりすることなく、エジプトの地に迎えました。ヨセフについては、素晴らしい祝福の言葉が続いています。

- ・ベニヤミン（27節）

ベニヤミンは、ヨセフと同じように、ヤコブが最も愛したラケルから生まれました。ですから、彼もヤコブから愛されたことは間違いありません。しかしながら彼の性格はオオカミのように激しいところがあって、彼の子孫は好戦的になったのでした。

以上、これで12人の子供たちへのヤコブからの祝福の言葉が終わりました。

これらすべてをまとめたみ言葉です。

28節「これらはすべてイスラエルの部族で、12であ

った。これは、彼らの父が彼らに語ったことである。彼らを祝福したとき、それぞれにふさわしい祝福を与えたのであった。」

ヤコブは子どもたちが、みな性格が異なっている、全員の性格を良く知っていて彼ら一人一人を祝福しました。そして、それ以上に全能の神様は世界中の人の性格をよくご存じで、一人ひとりを祝福して、導かれ生かして下さる神様なのです。

この様に祝福の言葉を述べた後、ヤコブは最後の時を迎えます。

———— ヤコブ、最後の時

————
(29～33節) 33節「ヤコブは息子たちに命じ終えると、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。」

さて、「自分の民に加えられた」という言葉はアブラハム（25：8節）の場合にも、イサク（35：29節）の場合にも同じことが言われています。

———— 1代目、アブラハム

ム ———

・1代目、アブラハム（175歳） 25：8節「アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。」

アブラハムは初代の人にふさわしく、彼の生涯は信仰の戦いの生涯でした。しかし、彼はこの信仰の戦いを、立派に戦い抜いて、神の民に加えられました。

———— 2代目、イサク

————

・2代目、イサク（180歳） 35：29節「イサクは年老いて満ち足り、息絶えて死に、自分の民に加えられた。息子のエサウとヤコブが彼を葬った。」

イサクは親の七光りの中を歩きました。父アブラハムに比べて、まことに静かな生涯を送りました。彼は父の遺産を忠実に守り、誠実な生活を送り、その一生を終わりました。彼も又、神の民に加えられました。

———— 3代目、ヤコブ（イスラエル） ————

・3代目、ヤコブ（イスラエル） 49：33節「ヤコブは息子たちに命じ終えると、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。」

ヤコブは父や祖父に比べて、あまりにも人間的であり、この世的でした。多くの罪を犯しました。しかしそんな彼も又、その生涯を終わって、神の民に加えられたのでした。祖父アブラハム、父イサクと同じ様に彼も又祝福されました。そして、（31節）アブラハムとイサクが葬られている約束の地に、彼も又葬られる事になるのです。

———— 肉的な人でも、世的な人でも救われる ————

立派な霊的な人も、肉的な、世的な、ずるい人も、教会に1度も来たことのない人でも、無教会派の人でも、カトリック教会の方でも・・・、イエス・キリストを自分の罪の救い主として信じている方は誰でも救われます。神様の恵みはどんな罪よりも大きいのです。たとえヤコブがどんな人間であったとしても、彼は「自分の民に加えられた」のでした。

私たちは自分の持っている物や、地上で何か功績

を残した事によって、誇ったり卑下したりしやすい者です。しかし神は、私たちの持っている物や、私たちの功績によって、私たちを愛するのではありません。ただ私たちを愛するが故に、ご自身の御子を十字架につけて下さいました。そしてそのことの故に、私たちを赦し、愛して下さいました。

よってこの一方的な恵みの故に、神を信じている私たちも又、アブラハム、イサク、ヤコブと続く者であり、同じ天に国籍を持つ者、神の家族とされるのです。 私たちもヤコブのようにやがて「その民に加えられる」のです。

——— 召される時はいつ

か？ ———

それにしてもヤコブは、今までに何回も死ぬような思いをして来ました。そして何度も死ぬことを願いました。例えば、

・その1、ヨセフを失った（と思った）時です。

（ヨセフは死んではいなかったのですが。）

37：35節「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」

それでもヤコブは死にませんでした。

・その2、再び子供（ベニヤミン）を失おうとした時です。

42：38節「・・・もし彼に災いが降りかかれば、あまえたちは、この白髪頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」ヨセフの弟のベニヤミンが、父から引き離されそうになった時のことです。（この時、ヨセフが活着しているとまだ知らされていませんでした。） でもヤコブは死にませんでした。

・その3、満足をした時です。その満足とは。

46：30節「もう今、私は死んでもよい。おまえがま

だ生きていて、そのおまえの顔を見たのだから。」
生きているヨセフと出会った時のことばです。

以上、ヤコブは悲しいにつけ、嬉しいにつけ、よく死ぬ、死ぬと言いました。しかし、ヤコブは死にませんでした。いや、死ねなかったのです。人は神の時が来るまでは死ねないものです。ですから自分で死のうとしてはなりません。

箴言14：32節「・・・正しい人は自分の死の中にも逃げ場がある。」（死ぬ時にも望みがある）

そして今、ヤコブはいよいよ神の御旨の時が来て、147歳、大満足をして天へと旅立ちました。